平和記念だより 95

2025年4月

◆編集・発行/高松市市民局人権・男女共同参画推進課　高松市平和記念館
◆連　絡　先/〒760-0068 高松市松島町一丁目15番1号 たかまつミライエ5階
TEL(087)833-2211　FAX(087)833-2244

小・中学生のための平和講演会

「小・中学生のための平和講演会」は、次世代を担う小学生や中学生に平和の尊さを理解してもらうための事業として令和元年にスタートしました。戦争の実相を伝えるために、講師の方がそれぞれの経験したことや、実際に起こった出来事について子どもたちに語ります。令和６年度は高松市立香西小学校、高松市立林小学校の２校で開催しました。

高松市立香西小学校

■開催日：令和６年９月５日(木)
■内　容：高松空襲の体験について
■講　師：池田　實(みのる)さん
■対　象：香西小学校６年生(75名)

無数の焼夷弾が落ちてくる中、その熱風と息苦しさで生きた心地がしなかった当時７歳の体験談が真に迫ります。自宅は焼け、日常生活を一瞬にして失うのが戦争だと強く語りました。

講演後に「戦争は本当に怖い。繰り返してはいけない」「高松空襲のことを知って、すごく悲惨で胸が締め付けられた」等の児童の感想が聞かれました。

高松市立林小学校

■開催日：令和６年12月17日(火)
■内　容：広島での被爆体験について
■講　師：長尾　昭雄(てるお)さん
■対　象：林小学校６年生(156名)

長尾さんは、１６歳の時に疎開先の広島市で被爆し、強烈な熱線と爆風にさらされた当時のことを振り返って訴えました。また、「日本被団協がノーベル平和賞を受賞した年にこの講演会ができることに感謝したい」と述べました。

児童から「今、平和に生きられているのは、長尾さんたちが当時のことを伝えているからだ」という声が聞かれました。

証言 高松空襲

あの日わたしは

証言⑫　櫻井文榮さん

「起きろ。」という父親の声で起きた時には、東の空と南の空は真っ赤だった。父は、自分は自転車であとから追いかけるからと、母には 4 歳の妹をおんぶさせ、私には１０歳と８歳の妹の手をつながせ、兵庫町の広場から西へ行き、郷東川を通過して祖母の住む鬼無へと向かうよう言った。防空頭巾をかぶり、肩には水筒、非常袋を十字にかけ、両手で二人の妹の手をつないで逃げた。逃げる途中、近所の人たちと会い、香西にある寺へ避難した。夕方、三人でてくてくと歩いて鬼無に向かった。祖母の家の玄関で、私たちを待っていた母の姿は今でも忘れることができない。

証言者プロフィール

- ■当時　女学校１年生
- ■住所　三番丁
- ■家族　６人
  父母、子ども４人
- ■家業　造り酒屋

「あの日わたしは　高松空襲～当時を伝える証言者の声～」(高松空襲を子どもたちに伝える会)証言映像より編集

平和映画☆上映会のお知らせ

平和記念館映像学習室において、次のとおり平和映画を上映します(無料)。

４月の上映　「凧になったお母さん(野坂昭如戦争童話集)」（45 分）

日　時▶　開館日の土・日・祝、午後１時～

解　説▶　B29 が落とした焼夷弾で町は火の海になる。大勢の人々が逃げ惑う中、カッちゃんはお母さんと近くの公園に逃げてきた。襲い掛かる炎により、体がカラカラになったカッちゃんのために、お母さんにできることは、自分の体から出る汗や涙で潤してあげることだった。野坂昭如さん原作の戦争アニメーション。

５月の上映　「かんからさんしん」（78 分）

日　時▶　開館日の土・日・祝、午後１時～

解　説▶　太平洋戦争末期、避難していたガマ(洞窟)の中で、手りゅう弾を手に死を覚悟する人々。それを思いとどまらせたのは、ガマの外から聞こえてくる島唄の懐かしい音色であった。「生きる」ことの意味をサンシンにのせて唄う人々と、沖縄戦の悲惨さを描いた長編アニメーション。

６月の上映　「Paper Cranes Story ～ケンタとマイコ～」（27 分）

日　時▶　開館日の土・日、午後１時～　※６月２２日(日)まで

解　説▶　命ある折鶴のケンタとマイコ、そして大勢の仲間たち。一羽、一羽の折鶴には、折った人の平和を願う強い気持ちが込められている。戦争や災害のない世の中を願う人々の思いを伝えるため、戦地や被災地へと飛び立っていく折り紙の活躍を描いたアニメーション。

※　都合により、上映作品・期間等を変更することがあります。

▽令和７年度行事予定△

5月

● **平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭**

期　日　令和７年５月１０日（土）
場　所　たかまつミライエ１階　多目的室
内　容　講演「空襲で焼け残った建物たちへのレクイエム」
　　映画「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」

6,7月

● **高松空襲展**

期　日　令和７年６月２７日（金）～７月７日（月）
場　所　たかまつミライエ５階　平和記念館
内　容　高松空襲の被災写真・絵画・資料パネルを展示

7月

● **高松市戦争遺品展**

期　日　令和７年７月１２日（土）～７月１８日（金）
場　所　瓦町 FLAG２階　コンコース
内　容　当館収蔵品等を展示

● **教職員のための平和教育講演会**

期　日　令和７年７月31日(木)
場　所　たかまつミライエ　会場については未定
内　容　講演(内容未定)と「平和学習」の説明

7,8月

● **原爆展**

期　日　令和７年７月２４日（木）～８月１５日（金）
場　所　瓦町 FLAG８階　瓦町アートステーション
内　容　原爆関連資料の展示と原爆体験者の講演

11月

● **高松市戦争遺品等収蔵品巡回展**

期　日　未定
場　所　未定
内　容　市民の皆様から寄贈された戦争遺品を中心に展示

※　都合により、開催を中止・延期することがあります。

収蔵品紹介 85

紀元二千六百年祝典記念章

寄贈者　渡辺　由紀子　様

寄贈者の祖父（陸軍少尉）の遺品。1940(昭和１５)年11月10日に内閣府主催で、昭和天皇、香淳皇后の出御（しゅつぎょ）のもと、紀元二千六百年式典（神武天皇が即位して 2600 年を迎えるのを祝う式典）が行われた。その式典に招かれた者、式典の事務や要務に関与した者にこの祝典記念章が授与された。アルミニウム青銅製で、表面に菊花紋、宮中三殿（賢所、皇霊殿、神殿）や二重橋などを図柄とし、裏面には中央に「紀元二千六百年祝典記念章」、下縁に「昭和15年」と記されている。総製作数は約20万個である。

表面の拡大

平和記念館「企画展示コーナー」に展示中

参考：紀元二千六百年祝典記念章令（昭和 15 年 7 月 27 日施行）より

戦時用語解説 77

敵性語

【読み】てきせいご

【分類】戦時中の統制

日中戦争が長期化するにつれ、アメリカ、イギリスとの対立が深まり、英語が「敵性」にあたるものだとして、適性外来語廃止の気運が高まった。アルファベットに由来するカタカナ名の俳優や歌手などの改名も言い渡され、ジャズ歌手のディック・ミネは戦時中「三根耕一」と改名している。

アメリカとの太平洋戦争が始まると、さらに社名(日本ビクター→「日本音響」など)やスポーツ名(サッカー→「蹴球（しゅうきゅう）」など)、飲食物(カレー→「辛味入汁掛飯（からみいりしるかけめし）」など)にも広がった。ただし、すでに欧米文化は生活に深く入り込んでおり、「コーヒー」「ハンカチ」「シャツ」等、多くの英語がそのまま使用されていた。

参考：「戦前・戦中」用語ものしり物語
北村恒信　著　光人社
親子で語る高松平和ガイドブック
高松市平和を願う市民団体協議会

編集メモ

昨年、日本被団協が 68 年間にわたる核廃絶を世界に訴える活動が認められ、ノーベル平和賞を受賞しました。被爆者が、自らの体験をもとに「ノーモア ウォー　ノーモア ヒバクシャ」と訴え、核兵器の廃絶を求めてきました。世界情勢を見ると、ウクライナ侵攻を巡って核の威嚇をするロシア、弾道ミサイルの発射実験を加速させている北朝鮮等、核の暗い影を落としている中、この日本被団協の受賞は、世界平和への明るいメッセージとなりました。

たかまつミライエ

高松市平和記念館（たかまつミライエ５階）

開館時間：午前９時～午後５時（入館は午後４時30分まで）
休 館 日：火曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始12/29~1/3
入 館 料：無料
▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）　▲QRコード
http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/keihatsu/heiwa/index.html

▶次回 96 号発行は、2025 年 7 月です。